

学界展望

ヒューム研究の現在

萬屋博喜
森直人
犬塚元

この学界展望が中心的に取り扱うのは、この10年、つまり2005年から2014年までに、英語圏において公刊された研究文献である。ヒューム生誕300年にあたる2011年を挟んだこの10年には、引き続き多くの文献が出版された。そこには、さまざまな新しい動向や傾向を見出すことができる。

クラレンドン版著作集については『人間本性論』(Norton and Norton 2007)の次が期待される状況だが、概説書・入門書は活況である。定評のあったケンブリッジ版コンパニオンが大幅に改訂されたほか(Norton and Taylor 2009)、坂本達哉会員も参画したブラックウェル版コンパニオン(Radcliffe 2008)、さらにはBailey and O'Brien 2012とRussell 2014が登場した。『人間本性論』のガイドとしては、Traiger 2006やAinslie and Butler 2015もある。単独の著者による入門書としては、伝記的スタイルのBaier 2011に加えて、保守主義との異同という観点からヒュームの思想を簡潔に紹介したBerry 2009がある[*Hume Studies* 36.2に壽里竜会員による書評]。アンソロジーとしては、Dunn and Harris 1997よりも新しい時期の重要な研究論文を収録したHaakonssen and Whatmore 2013が出た。論文集としては、M.A. ステュアート記念論集であるSavage 2012に、ヒュームをめぐる多くの論文が収録されている(晩年の未公開書簡も掲載)。入門的ブックガイドにはHarris 2010がある。

日本ではこの10年に、原典の翻訳として、『人間本性論』の新訳(石川・中釜・伊勢 2011、伊勢・石川・中釜 2012)が完成したほか、『政治論集』初版訳(田中秀夫 2010)と『道徳・政治・文学論集』全訳(田中敏弘 2011)が公刊された。『イングランド史』は現在翻訳作業中であり、次には、学生や一般読者がアクセスしやすい各作品の廉価版の登場が待たれる。ヒュームをめぐる専門研究書としては、単著として久米 2005、森 2010、坂本 2011、矢嶋 2012、林 2015が登場し、論文集としては中才 2005、『思想』1052号がある。二次文献の翻訳としては、ホント 2009とフォーブス 2011という重要文献のほかにも、ヒューム研究においても近年言及されることの多いJ. ロールズの講義録が翻訳された(ロールズ 2005、ロールズ 2011)。

政治思想・歴史叙述

犬塚 元

(1) 概要——研究動向の転換

作品としては『イングランド史』、ジャンルとしては歴史叙述に、ヒューム研究の関心が大きく向かっていることは世紀転換期に明確になっていたが、その傾向は、この10年にさらに顕著となった。ここでは、政治思想・歴史叙述の領域でこの10年に、英語圏において書籍のかたちで公刊された研究文献を中心に取り上げる。

「ヒュームは哲学を断念して歴史に向かった」というコリングウッド・テーゼは20世紀には大き

な影響力をもったが、すでに過去のものとなりつつある。こうした研究動向の変化の背景としては、ナラトロジーに代表されるメタヒストリーの成果によって、歴史叙述が哲学研究・理論研究の重要な対象とみなされるようになった、というマクロな学問状況の転換を指摘できる。メタヒストリーや社会構築主義の知見をふまえて、歴史叙述を政治思想・社会思想の重要な一部とみなす方法的視座も確立した。

『イングランド史』のヒューム、あるいは歴史家としてのヒュームに対する関心の高まりは、たとえばA. バイアーの晩年の作品 Baier 2008 に顕著に表れているが〔本誌33号に伊勢俊彦会員の書評〕、1989年の著作の改訂版 Phillipson 2011 が、新たに「歴史家としての哲学者」という副題を採用したことも、こうした研究動向の変化を表現している。

歴史叙述や『イングランド史』を分析対象に含めることは、それらを新たな根拠史料として利用するだけにとどまらず、ヒュームの思想体系を再定位する企てにもなる。Wiley 2012 は、理論と実践の関連をめぐる認識に着目するアプローチから、『イングランド史』や『論集』を包摂してヒュームの哲学体系を再定位する。『ヒューム——歴史的思想家、歴史的著述家』と題する Spencer 2013 は、さまざまな観点からヒュームの歴史叙述・歴史認識の位置づけを試みた論文集である。初期アメリカにおけるヒュームの受容を検討した Spencer 2002 ; Spencer 2005 によれば、『イングランド史』こそが初期アメリカでもっとも読まれていた作品だった。

(2) 『イングランド史』の政治思想

この10年間でもっとも本格的な『イングランド史』研究は Sabl 2012 であるが、研究史のなかにこれを位置づけるためには、1990年代後半の研究をふまえる必要がある。

ヒュームの政治思想や歴史叙述をめぐる20世紀の最後の四半世紀に絶大な影響を誇ったのは、Forbes 1975 (フォーブズ 2011) であった。一国的・島国的な既存のイングランド史解釈(古来の国制論)を批判した文明の思想家という彼のヒューム解釈は、『イングランド史』解釈としては O'Brien 1997 に継承された。ヨーロッパの文明発展をめぐるコスモポリタニズムの歴史叙述という解釈である(別のかたちで D. フォーブズの解釈を発展させた McArthur 2007 は、ヒュームの文明概念の中核に「法の支配」を見出す〔『経済学史研究』50.2 に犬塚の書評〕)。他方、K. オブライアンと同時期に Hicks 1996 は、既存の党派的歴史叙述を批判した『イングランド史』を、古代型の歴史叙述を再興した「ネオクラシカルな歴史叙述」と位置づけている〔O'Brien 1997 と Hicks 1996 について『国家学会雑誌』115.11/12 に犬塚の書評〕。

啓蒙の再評価を試みたプロジェクトの一部である Pocock 1999 は、『イングランド史』をめぐる研究史上においては、この両著の合流点に位置する〔本誌26号に天羽康夫会員による書評、『思想』1007号に犬塚による書評的論考〕。ここで J.G.A. ポーコックは、A. モミリアーノの史学史研究をふまえて、啓蒙期の歴史叙述が様々な成層から構成されていたことを指摘する。そこには、個別具体的な政治事件を物語るミクロナラティブの層もあれば、文明発展を大掴みに論じるマクロナラティブの層もある。そして『イングランド史』こそ、そうした歴史叙述の典型例であったというのである。

そののち、専門的なコンパニオン (Bourgault and Sparling 2013) の刊行にも示されるように、啓蒙期の歴史叙述をめぐる研究は活性化しており、以前の解釈には見直しが迫られている。それまで啓蒙期の歴史叙述をめぐる研究は、「推論史」という形態を採った段階論的な文明化のマクロナラティブに注目が集まっていたが、ポーコックの指摘は、『イングランド史』の本論部分を構成する個別具体的な歴史物語りに研究者の関心を向けた。『ヒュームの政治学』というタイトルを掲げた Sabl 2012 が分析したのも『イングランド史』のそうしたミクロナラティブである。

ところが、そのうえで A. サブルが描き出す知的情景は、ネオクラシカルな人文主義からはほど遠い、現代アメリカの数理社会科学である。彼が『イングランド史』に見出したのは「権威 [正統的な権力] をめぐるコンヴェンション」の形成をめぐる歴史叙述であり、サブルの理解では、そこでヒュームは、「調整ゲーム」(各人の利益のために集合的意思決定が必要となるゲーム) について論じていた。つまり、『イングランド史』の歴史叙述は、コンヴェンションの自己形成を論じた「動的な調整理論」として読解できるというのである。

(3) 政治理論家、啓蒙思想家としてのヒューム

サブルの研究は、突然に出現した異端児ではない。「調整ゲーム」においてナッシュ均衡をもたらす制度的解答としてヒュームのコンヴェンションを位置づける理解は D. ルイスや R. ハーディンらが示しており、なかでもハーディンにはそうした観点からのヒューム研究がある (Hardin 2007)。サブルはこうした理解を『イングランド史』解釈に応用したのである。

ハーディンによれば、ヒュームは、社会秩序の形成・維持をめぐるホッブズと同じ問いに対して、コンヴェンション概念によって別の解答を与えた、戦略分析・ゲーム理論の先駆者である。ヒュームには規範的な道徳哲学はなく、記述的な道徳心理学しかなかったという (ロールズに依拠した) 解釈がここには連動している。ハーディンの解釈に対しては、ヒュームの正義概念の拡張を試みた Baier 2010 が (同じくロールズを援用しながら) 批判を向けているが [本誌 36 号に林誓雄会員による書評]、ハーディンやサブルの研究は、ゲーム理論と接合してヒュームの政治理論のレレヴァンシーを示そうとするアメリカでのひとつの研究動向を典型的に示している。現代の政治理論に接続することを意図した研究としてはそのほか、ヒュームのレトリックに理性と情念を媒介する可能性を見出した Hanvelt 2012 がある。

ハーディンはホッブズと対比しながらヒュームを論じたが、その点に限っては Russell 2008 も同じアプローチを採る。P. ラッセルが試みたのは、ヒュームの思想を脱宗教化のプログラムと位置づけることを通じて、懐疑主義的解釈と自然主義的解釈を接合することであった [本誌 32 号に久米暁会員の書評]。神による道徳の基礎付けを拒否した「道徳的無神論」との解釈は、同時期に Holden 2010 が示している。

ヒュームの政治思想をめぐる研究動向においてももうひとつ無視できないのは、啓蒙の再評価というマクロな研究動向である。Pocock 1999 と Robertson 2005 の対抗関係をひとつの出発点とするこの研究動向が、啓蒙の多様性と非 - 反宗教性を示すに至ったことはすでに国内でもさまざまな紹介が

あるが、本稿の観点から留意すべきは、ポーコックにせよ J. ロバートソンにせよ、ヒュームを啓蒙の中心に位置づけた点である。つまり、啓蒙の再評価とヒュームの再評価は相互に連動しながら進行している。

こうしたなかでは、「啓蒙のビジネス」を描いた R. ダントンのフランス啓蒙研究と同じように、スコットランド啓蒙に関しても Sher 2006 のように社会的アプローチが積極的に採用されている。Emerson 2009 は、遅れたスコットランドの改良という実践性をスコットランド啓蒙の中心の特徴とし、そうした観点からヒュームの『論集』や『イングランド史』を読解する。『イングランド史』の分析を通じて、党派対立に対抗する洗練のプログラムとしてヒュームの思想を描いた先述の Phillipson 2011 もこの系譜にある。

「ロー啓蒙」に目配りした社会史的研究の隆盛の一方、知識人が担った「ハイ啓蒙」に注目する思想史・理論史研究も依然として盛んである。Rasmussen 2014 は、J. イズリエルが析出した「急進的啓蒙」とは別の、啓蒙の本流たる「プラグマティックな啓蒙」の系譜のなかにスミス、モンテスキュー、ヴォルテールとともにヒュームを位置づける。普遍主義、理性崇拜、原子論的個人主義、という啓蒙批判のクリシェが妥当しない系譜を示すことで、啓蒙の政治理論を再評価しようというのである。『人間本性論』から『イングランド史』まで幅広く吟味した Susato 2015 は、「懐疑的啓蒙」という分析概念でヒュームの思想の特質を表現している。そのほか Manning and Cogliano 2008 は「大西洋啓蒙」、Frazer 2010 は「同感の啓蒙」という分析枠組みのなかにヒュームを位置づけている。

(いぬづか はじめ・東北大学)

言及文献

- Ainslie, Donald C. and Annemarie Butler 2015. *The Cambridge Companion to Hume's Treatise*, Cambridge University Press.
- Baier, Annette C. 2008. *Death and Character: Further Reflections on Hume*, Harvard University Press.
- 2010. *The Cautious Jealous Virtue: Hume on Justice*, Harvard University Press.
- 2011. *The Pursuits of Philosophy: An Introduction to the Life and Thought of David Hume*, Harvard University.
- Bailey, Alan and Dan O'Brien eds. 2012. *The Continuum Companion to Hume*, Continuum.
- Bardsley, Nicholas et al. 2009. *Experimental Economics: Rethinking the Rules*, Princeton University Press.
- Beebe, Helen 2006. *Hume on Causation*, Routledge.
- Berry, Christopher J. 2009. *David Hume*, Continuum.
- 2013. *The Idea of Commercial Society in the Scottish Enlightenment*, Edinburgh University Press.
- Blackburn, Simon 1990. "Hume and Thick Connexions", *Philosophy and Phenomenological Research* 50: 237-250.
- 2008. *How to Read Hume*, Granta Books.
- Bourgault, Sophie and Robert Sparling eds. 2013. *A Companion to Enlightenment Historiography*, Brill.

- Boyle, Deborah 2012. "The Ways of the Wise: Hume's Rules of Causal Reasoning", *Hume Studies* 38 (2): 157-182.
- Broughton, Janet 2004. "The Inquiry in Hume's Treatise," *The Philosophical Review* 113: 4, 537-556.
- Cohon, Rachel 1997. "Is Hume a Noncognitivist in the Motivation Argument?", *Philosophical Studies* 85: 251-266.
- 2008. *Hume's Morality: Feeling and Fabrication*, Oxford University Press.
- Coventry, Angela 2006. *Hume's Theory of Causation: A Quasi-Realist Interpretation*, Continuum.
- Dunn, John and Ian Harris eds. 1997. *Hume*, E. Elgar.
- Emerson, Roger L. 2009. *Essays on David Hume, Medical Men and the Scottish Enlightenment: Industry, Knowledge and Humanity*, Ashgate.
- Finlay, Christopher J. 2007. *Hume's Social Philosophy: Human Nature and Commercial Sociability in A Treatise of Human Nature*, Continuum.
- Fogelin, Robert J. 1985. *Hume's Skepticism in the Treatise of Human Nature*, Routledge and Kegan Paul.
- Forbes, Duncan 1975. *Hume's Philosophical Politics*, Cambridge University Press.
- Frazer, Michael L. 2010. *The Enlightenment of Sympathy: Justice and the Moral Sentiments in the Eighteenth Century and Today*, Oxford University Press.
- Garrett, Don 1997. *Cognition and Commitment in Hume's Philosophy*, Oxford University Press.
- Haakonssen, Knud and Richard Whatmore eds. 2013. *David Hume*, Ashgate.
- Hanvelt, Marc 2012. *The Politics of Eloquence: David Hume's Polite Rhetoric*, University of Toronto Press.
- Hardin, Russel 2007. *David Hume: Moral and Political Theorist*, Oxford University Press.
- Harris, James A. 2010. *David Hume: Moral and Political Philosophy: Oxford Bibliographies Online Research Guide*, Oxford University Press.
- Hicks, Philip 1996. *Neoclassical History and English Culture: From Clarendon to Hume*, Macmillan.
- Holden, Thomas 2010. *Spectres of False Divinity: Hume's Moral Atheism*, Oxford University Press.
- Hont, Istvan 2005. *Jealousy of Trade: International Competition and the Nation-State in Historical Perspective*, Belknap Press of Harvard University Press.
- Hursthouse, Rosalind 1990-1. "After Hume's Justice", *Proceedings of the Aristotelian Society* 91: 229-245.
- Kail, P.J.E. 2007. *Projection and Realism in Hume's Philosophy*, Oxford University Press.
- Karlsson, Michael 2006. "Reason, Passion, and the Influencing Motives of the Will", *The Blackwell Guide to Hume's Treatise*, Saul Traiger ed., 235-255.
- Kemp Smith, N. 1905. "The Naturalism of Hume (I) and (II)", *Mind* 14 (54, 55): 149-73 and 335-347.
- Manning, Susan and Francis D. Cogliano eds. 2008. *The Atlantic Enlightenment*, Ashgate.
- McArthur, Neil 2007. *David Hume's Political Theory: Law, Commerce, and the Constitution of Government*, University of Toronto Press.
- Millican, Peter 2009. "Hume, Causal Realism, and Causal Science", *Mind* 118 (471): 647-712.

- Norton, David Fate and Mary J. Norton eds. 2007. *A Treatise of Human Nature: A Critical Edition*, 2 vols., Clarendon Press.
- Norton, David Fate and Jacqueline Taylor eds. 2009. *The Cambridge Companion to Hume*, 2nd edn., Cambridge University Press.
- O'Brien, Karen 1997. *Narratives of Enlightenment: Cosmopolitan History from Voltaire to Gibbon*, Cambridge University Press.
- Phillipson, Nicholas 2011. *David Hume: The Philosopher as Historian*, Penguin.
- Pigden, Charles ed. 2010. *Hume on Motivation and Virtue: New Essays*, Palgrave Macmillan.
- Pocock, J.G.A. 1999. *Barbarism and Religion, II: Narratives of Civil Government*, Cambridge University Press.
- Radcliffe, Elizabeth S. 1999. "Hume on the Generation of Motives: Why Beliefs Alone Never Motivate", *Hume Studies* 25: 101-122.
- ed. 2008. *A Companion to Hume*, Blackwell.
- Rasmussen, Dennis C. 2014. *The Pragmatic Enlightenment: Recovering the Liberalism of Hume, Smith, Montesquieu, and Voltaire*, Cambridge University Press.
- Read, Rupert and Kenneth A. Richman eds. 2000. *The New Hume Debate*, Routledge.
- Robertson, John 2005. *The Case for the Enlightenment: Scotland and Naples, 1680-1760*, Cambridge University Press.
- Rotwein, Eugene ed. 2007. *Writings on Economics*, with an introduction by Eugene Rotwein and a new introduction by Margaret Schabas, Transaction Publishers.
- Russell, Paul 2008. *The Riddle of Hume's Treatise: Skepticism, Naturalism, and Irreligion*, Oxford University Press.
- ed. 2014. *The Oxford Handbook of David Hume*, Oxford University Press.
- Sabl, Andrew 2012. *Hume's Politics: Coordination and Crisis in the History of England*, Princeton University Press.
- Savage, Ruth 2012. *Philosophy and Religion in Enlightenment Britain: New Case Studies*, Oxford University Press.
- Schafer, Karl 2014. "Curious Virtues in Hume's Epistemology", *Philosophers' Imprint* 14 (1): 1-20.
- Setiya, Kieran 2004. "Hume on Practical Reason", *Philosophical Perspectives* 18 (1): 365-389.
- Sher, Richard B. 2006. *The Enlightenment & the Book: Scottish Authors & Their Publishers in Eighteenth-Century Britain, Ireland, & America*, University of Chicago Press.
- Slote, Michael 2001. *Morals from Motives*, Oxford University Press.
- Smith, Michael 1987. "The Humean Theory of Motivation", *Mind* 96 (381): 36-61.
- Spencer, Mark G. ed. 2002. *Hume's Reception in Early America*, Thoemmes Press.
- 2005. *David Hume and Eighteenth-Century America*, University of Rochester Press.

- eds. 2013. *David Hume: Historical Thinker, Historical Writer*, Pennsylvania State University Press.
- Strawson, Galen 1989. *The Secret Connexion: Causation, Realism, and David Hume*, Oxford University Press.
- 2011. *The Evident Connexion: Hume on Personal Identity*, Oxford University Press.
- Strawson, P.F. 1985. *Skepticism and Naturalism: Some Varieties*, Cambridge University Press.
- Sugden, Robert 2006. "Hume's Non-Instrumental and Non-Propositional Decision Theory", *Economics and Philosophy* 22 (3): 365-391.
- Susato, Ryu (壽里竜) 2015. *Hume's Sceptical Enlightenment*, Edinburgh University Press.
- Traiger, Saul ed. 2006. *The Blackwell Guide to Hume's Treatise*, Blackwell.
- Tolonen, Mikko 2013. *Mandeville and Hume: Anatomists of Civil Society*, Voltaire Foundation.
- Wennerlind, Carl and Margaret Schabas eds. 2008. *David Hume's Political Economy*, Routledge.
- Wiley, James 2012. *Theory and Practice in the Philosophy of David Hume*, Palgrave Macmillan.
- Williams, Michael 1996. *Unnatural Doubts*, Princeton University Press.
- 2008. "Hume's Skepticism", *The Oxford Handbook of Skepticism*, John Greco ed., 80-107.
- Wright, John P. 1983. *The Sceptical Realism of David Hume*, Manchester University Press.
- 2009. *Hume's 'A Treatise of Human Nature': An Introduction*, Cambridge University Press.
- 石川徹・中釜浩一・伊勢俊彦訳 2011『人間本性論』第2巻、法政大学出版局。
- 伊勢俊彦・石川徹・中釜浩一訳 2012『人間本性論』第3巻、法政大学出版局。
- 久米暁 2005『ヒュームの懐疑論』岩波書店。
- 坂本達哉 2011『ヒューム 希望の懐疑主義：ある社会科学の誕生』慶應義塾大学出版会。
- 『思想』2011年12月号(1052号・特集「デイヴィッド・ヒューム生誕300年」)岩波書店。
- 壽里竜 2004「【研究動向】1980年代以降のヒュームの社会・経済思想研究」『経済学史学会年報』第46号、83-95頁。
- 鈴木生郎他 2014『ワードマップ現代形而上学：分析哲学が問う、人・因果・存在の謎』新曜社。
- 田中敏弘訳 2011『道徳・政治・文学論集』名古屋大学出版会。
- 田中秀夫訳 2010『政治論集』京都大学学術出版会。
- 中才敏郎編 2005『ヒューム読本』法政大学出版局。
- 林 誓雄 2015『檻を纏った徳：ヒューム 社交と時間の倫理学』京都芸術出版界。
- フォーブズ、ダンカン 2011『ヒュームの哲学的政治学』(田中秀夫監訳)昭和堂。
- ホント、イシュトファン 2009『貿易の嫉妬：国際競争と国民国家の歴史的展望』(田中秀夫監訳、大倉正雄・渡辺恵一訳者代表)昭和堂。
- 森直人 2010『ヒュームにおける正義と統治：文明社会の両義性』創文社。
- 矢嶋直規 2012『ヒュームの一般的観点：人間に固有の自然と道徳』勁草書房。
- ロールズ、ジョン 2005『ロールズ哲学史講義』(久保田顕二・下野正俊・山根雄一郎訳)みすず書房。
- 2011『ロールズ政治哲学史講義』(齋藤純一・佐藤正志・山岡龍一・谷澤正嗣・高山裕二・小田川大典訳)岩波書店。